
夢の出来事

秋之夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の出来事

【Zコード】

N4744E

【作者名】

秋之夜

【あらすじ】

夢の中で夢と氣づいた男、彼はその夢の中で一人の青年と出会い。

夢の出来事

ある男が夢を見た。夢の中には地平線が見えるぐらい何も無い広い野原だった。男はすぐにこれが夢という事に気づいた。

夢の中なんて気づくのは珍しい事だ、存分に夢を楽しんでやろうとしたが何もすることがない。周りにはただ野原が広がるだけで娯楽な物は何も無かったのだ。

男は夢の中だから何もかも自分の思い通りに行くだらうと思い、試しに美女が出て来い！と念じてみたが何も起こらなかつた。今度は空を飛んでみるぞ！と念じて手をバタバタさせたりその場でジャンプをしてみたりしたが何も起こらない。むしろ動きすぎて疲れてしまつたぐらいだ。

「夢の中なのに何もできないなんて、これじゃ夢つて気づいたって何も面白くないや」

男は夢から覚めようとしたがどうにも目を覚ますことが出来ない。ほつぺたを抓つたり大声を出してみたりしたが夢から覚める事はなかつた。

仕方なく男はトボトボと野原を歩いていると大きな木を見つけた。そしてその下に誰かが居るのも見つけた。男はやつと何かに出会えて嬉しかつたのかその木の元に駆けていった。

そこに居たのは若い青年でキャンバスにその大きな木を写生していた。男は声をかける前にその絵を覗き込んだ。その絵はお世辞にも上手いとは言えないものだつた。

男は恐る恐るその青年に声をかけてみた。すると青年は愛想良く返事をしてくれた。

「この木を写生してるんですか？」

「はい、僕は絵を描くのが大好きなんです。この大きな木が気に入

つたので描いていました」

あえてここが自分の夢であるという事を男は話さなかつた。例え夢の中だとしてもそんな事を言えば変人扱いされると思ったから。せつかく夢の中で人に会えたのだから少し相手をしてほしかつたのだ。

「しかしあま・・・独特的な絵ですね」

男は少し遠めにその絵が下手である事を伝えた。こういう時あまり直球に下手と言える程この男は肝が大きくないし、それは相手にとつても失礼だと分かつてはいるからだ。しかし青年は笑いながら

「下手の横好きなんですよ」

と言つた。どうやら自分で下手という事には気づいているみたいだ。

少し気まずい雰囲気になつてしまつたが男は青年の隣に一式の絵描き道具が揃つてているのを見つけた。

「あなたも描きますか？」

青年は男にそう言つてキャンバスの前に椅子を置いた。男は青年に自分の腕を見せてやろうと思ひ椅子に座り絵を描き始め、男は青年に言つた。

「実は私絵描きなんですよ」

青年が絵を仕上げた後少し経つてから男も絵を仕上げた。両方の絵を見比べると歴然とその違いが分かる。落書きと写真程の違いがあつた。

「やつぱりプロだけあつて凄い上手いですねえ、こんな上手い絵を見てたら自分の絵が恥ずかしいです」

青年は顔を少し赤らめてうつむいた。男は悪い事をしたと思い、その青年に絵を教えてあげる事にした。青年は喜びながら新しいキャンバスを用意した。

青年は覚えがいいのか男が教えるとどんどん絵が上手くなつていつた。男も驚いてこの青年には才能があるかも知れないと感じた。その後何時間もその大きな木を題材にして何枚もの絵を描いた。

そして最終的には青年の絵は男よりも上手くなつていった。青年は大喜びで男にお礼を言つたが、正直男は自分より上手くなつてしまつてちょっと嫉妬もしていた。こんな短時間でここまで上手くなるとは思つてはいなかつた。

そしてそこで男の目は覚めた。男は起き上がると顔を洗い歯を磨きながら、そだあれは夢だつたんだと思つた。途中からすつかり夢だという事を忘れていたのだ。

奇妙な夢から数日が経つた、男は仕事を終えて家に帰りテレビをつけた。するとあの青年がテレビに出ていた。どうやら個展を開いてそれが大受けして今じやその青年の絵は一枚百万もの価値があるらしい。

「僕は絵が下手でしたがある夢のおかげでいきなり絵が上手く描けるようになりました。夢の中で僕に絵を教えてくれた人がいたんです。本当に不思議な夢でした」

男は開いた口が塞がらなかつた。まさかあの夢に出てきた青年がこんなにも有名になつているなんて。

男はあの夢は男自身の夢ではなくあの青年の夢だつたことが分かつた。どうやって夢に入り込んだかは分からぬが、確かに自分の夢じやないから自分の思い通りにいかないはずだ。そう考えた。しかし一つだけ腑に落ちないとこがあつた。

「俺は絵描きでもなんでもない、ただのサラリーマンだ。なのに俺はあの青年の夢では絵描きになつて絵を教えていた。あの青年の上手くなりたいという意思が俺を夢の中で絵描きに変えたのか、それとも実は俺にも絵描きの才能があるのか……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4744e/>

夢の出来事

2010年12月17日06時29分発行